

海外の話題

キコン（気根）の力！…熱帯植物園にて

農林中央金庫 シンガポール支店長 有我 渉

ほぼ十年ぶり二度目のシンガポール勤務である、早いもので半年超が過ぎた。

十年ひと昔・・・とよく言われるが、やはり大きく「変わったなあ」と感じることは、この国の人々の装いや暮らしぶりが一段と「豊かになったなあ」ということだろう。一人当たり GDP の金額で、とうとう日本は追い抜かれてしまった。過去 20 年間平均して 6% を超える成長を続け、これをまだまだ維持しそうな国の勢いを今の日本と比較すると、羨望とともにやや諦めに近い気分になる。が、この持続的高成長がたまたまのラッキーといった結果ではなく、国土も資源もない小国が官民総出で知恵を絞りに絞って達成してきたものだということが分かったら、当方の弱気の虫も引っ込んで、あらためてこの小さな島国の持つソフト面での強み、競争力の源はいったい何なのか？という新たな気分も湧いてくる。

4 百万人だった人口をここ十年間で 1 百万人増加させた政府の大胆かつ入念な移民政策一つをとってみても、考えさせられることが多い。生き残りを賭けて成長戦略を立案し、これを是が非でも実現していく！という真剣度合い、本気度の違いが伝わってくる。

さて先日、当地の熱帯植物園（ボタニック・ガーデン）で日本語ガイドのボランティアの方々から数回に分けて園内で講習を受ける機会があった。十年たっても「変わらんなあ」と思う一番は、やはりこの熱帯雨林の圧倒的な植物群が示す多様性と密度、ダイナミックに変化するスピード感だろう。メキメキ伸びて、メシメシ枯れていく・・・そんな音まで聞こえてきそう。今回、とりわけ目を引いたのは、大きく伸ばした枝の途中から地表に向けて気根を延々と垂らしている樹の多いことである。ガイドの先生によると、熱帯雨林では落雷等で高い木が倒れると、そのスペース（日光）を目がけて周囲の低木たちが争うようにいっせいに枝を伸ばしていくそう。そして一気に枝を伸ばし切った後で気根を垂らしていく。お釈迦様がその樹下で悟りを開かれたというインド菩提樹などでは、この気根が地表に達し、地中に根を下ろして、まるで幹のように太くなっていく。これも植物の知恵だろう、最後は無数の幹で大木を支えているように見える。

つくづく眺めているうちに、かなりグロテスクなこの姿、グローバル化した市場経済のなかで、まさに生き残りを賭けて必死で競争している企業や金融機関、さらにはわれわれ自身の姿にどうも重なって見えてくる。日本という国にしっかり根を張り、太い幹を持つわれわれ系統金融機関も、いまやグローバルに大枝を広げて競争している時代。当支店も今年で開設 17 年、気根を垂らしてこの地にしっかり根を下ろし、太くなって系統の大枝を支えつつ、この土地・地域の“養分＝知恵”を少しでも枝先に送り込む、そんな機能を十全に発揮しているかな？と自問してみる・・・目指すは、キコンの力！